KIORITZ Green

エンジンセット動噴

取　扱　説　明　書

GEP351

このたびは、グリーンエンジンセット動噴をお買い上げ頂き、厚くお礼申し上げます。

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2001/08

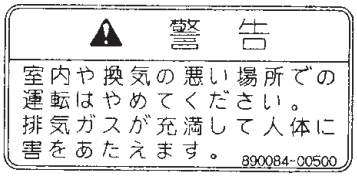
⚠ 注　意

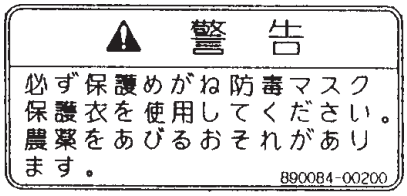
- この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- この取扱説明書で解説している機械を、貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

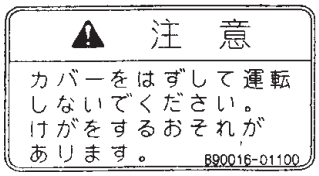
警告表示ラベルについて

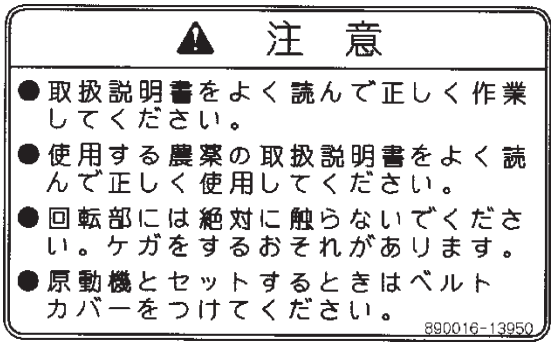
- この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に「警告表示ラベルの位置」で確認し、ラベルの意味を理解してください。
- 万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店より新しくラベルを購入し、「警告表示ラベルの位置」に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。

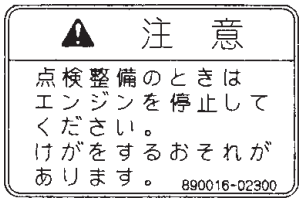
警告表示ラベル











はじめに

グリーンセット動噴をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この動力噴霧機をこの取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。

目 次

はじめに …… 1
各部の名称 …… 2
正しい作業のために …… 7
運転前の準備 …… 12
運　転 …… 14
噴霧作業の開始・停止 …… 16
輸送・移動時の注意 …… 18
点検・整備 …… 18
長期保管 …… 21
ご利用の手引き …… 22
故障対策 …… 24
仕　様 …… 26

・説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警　告

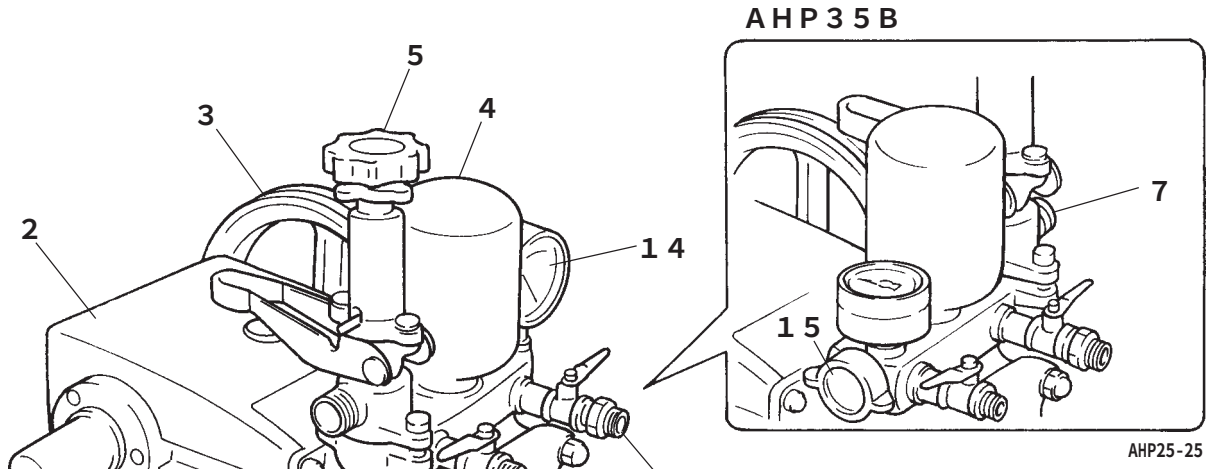
- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丛に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

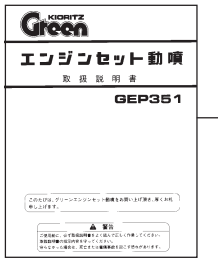
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

各部の名称

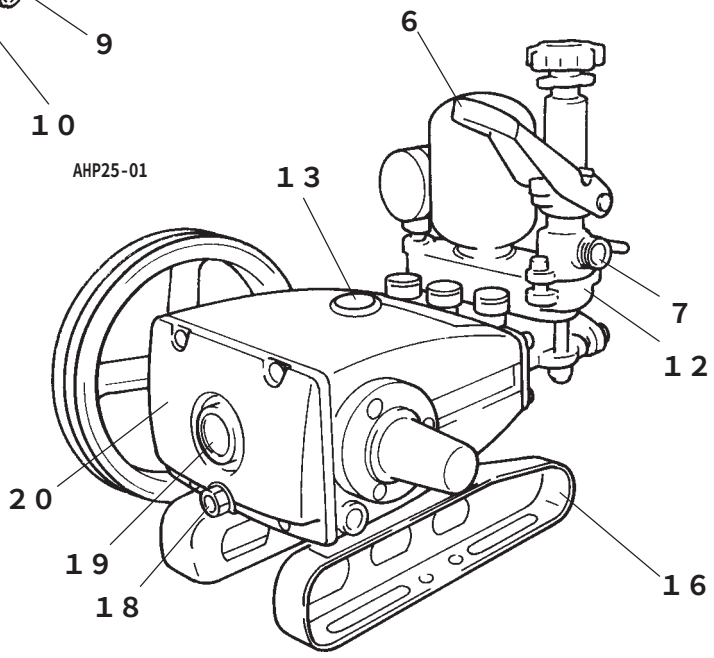


AHP25-25

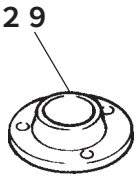
AHP25-01



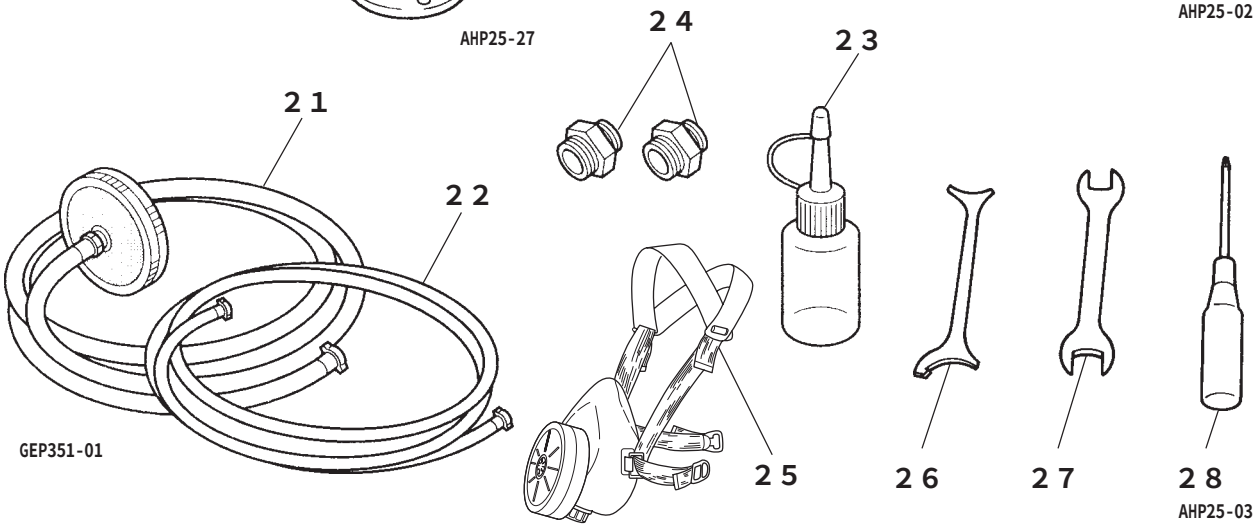
1



AHP25-02



AHP25-27



GEP351-01

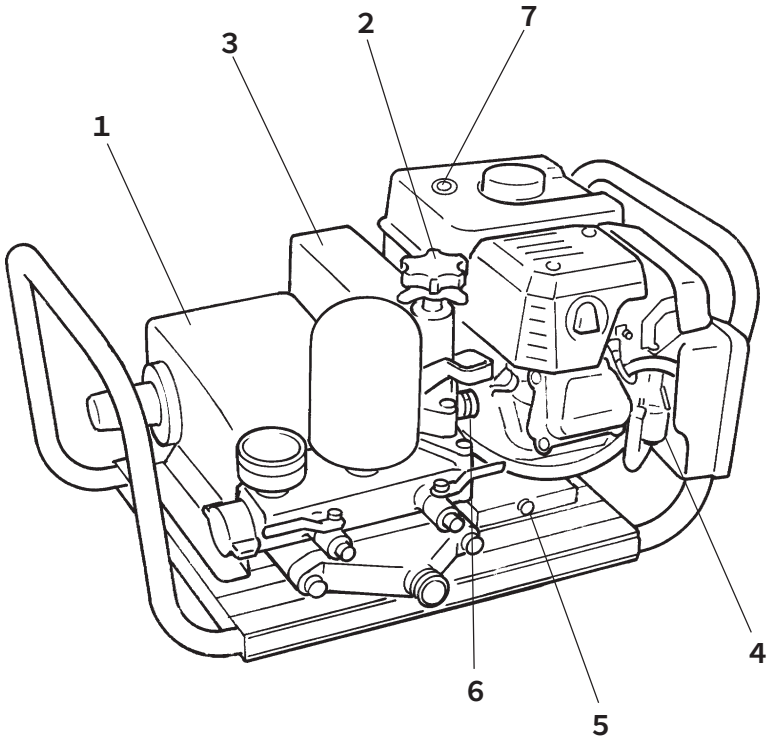
AHP25-03

各部の名称

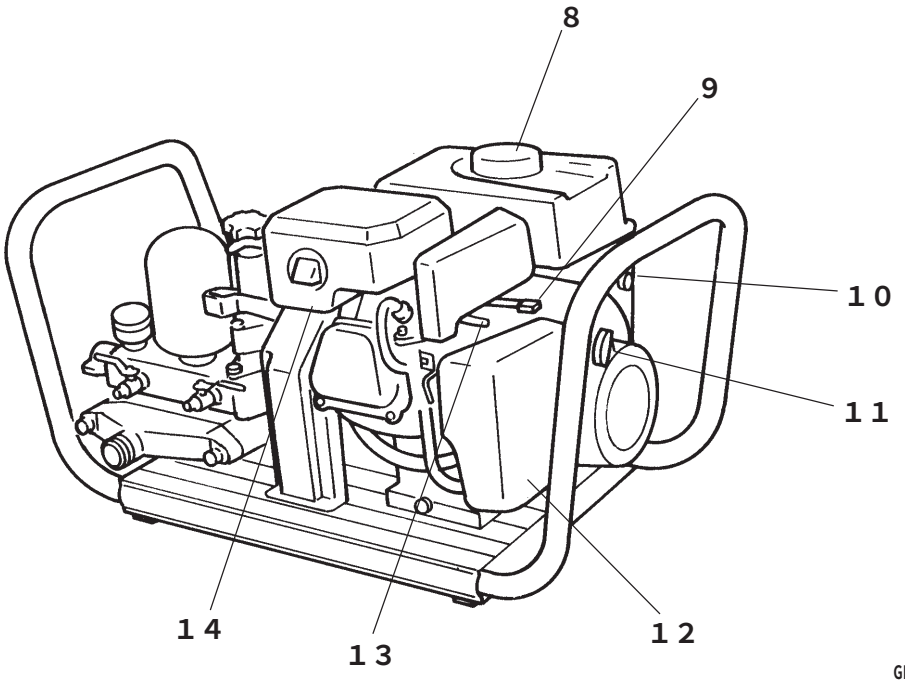
１． 取扱説明書	——	機械をお求めになったとき必ず付いています。 機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作技術を再度確認する場合に備えすぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２． クランクケース	——	動力の回転運動を往復運動に変え、プランジャに伝えます。
３． プーリ	——	動力を受けてポンプを回すためのものです。
４． 空気室	——	中に空気があり、ポンプの脈動を少なくするためのものです。
５． 調圧ネジ	——	ポンプの吐出圧力を調整するものです。
６． 調圧レバー	——	レバーを上げると無圧状態になります。
７． 余水口	——	余水ホースを接続します。
８． 吐出口	——	散布ホースを接続し､コックを開くと薬液などが送り出されます。
９． 吸水口	——	吸水ホースを接続します。
１０．吸水弁室	——	吸水弁が組込まれている室です。
１１．シリンダ	——	吸込まれた薬液などを加圧します。
１２．吐出弁室	——	吐出弁が組込まれている室です。
１３．クランクケース注油口	——	クランクケース内にオイルを入れる所です。
１４．圧力計	——	ポンプの圧力を表示します。
１５．灌水口	——	灌水時にはプラグを外して使用します。
１６．架台	——	動力源とセットする際、この部分をネジなどで固定します。
１７．クランク軸カバー	——	クランク軸のカバーで回転部に触れるのを防ぎます。 また､攪拌器を接続する場合このカバーを外し､付属のオイルシールカバーと交換します。
１８．ドレン	——	クランクケース内のオイルを抜く所です。
１９．オイルゲージ	——	クランクケース内のオイル量および汚れを見る所です。
２０．クランクケース後ふた	——	クランク内部を密閉するふたです。
２１．吸水ホース	——	ストレーナが着くようになっていて薬液を吸込むホースです。
２２．余水ホース	——	余った薬液をタンクに戻すホースです。
２３．オイラ（給油用）	——	ポンプのプランジャ部にオイルを滴下（給油）するときに使用します。
２４．旧ネジアダプタ	——	旧ネジサイズの散布ホースと接続する場合使用します。
２５．マスク	——	農薬の吸込みを防止するマスクです。
２６．グランドナットスパナ	——	Ｖパッキンを締付けるときに使用します。
２７．１２×１４両口スパナ	——	エンジンをセットするときに使用します。
２８．プラスドライバー	——	クランクケース後ふたを開けるのに使用します。
２９．オイルシールカバー	——	攪拌器を使用する場合クランク軸カバーと交換します。

各部の名称

ポンプの各部の名称は２ページを参照してください。



GEP350-01



GEP350-02

各部の名称

１．	ポンプ	―― 薬液を吸込み、加圧し送り出します。
２．	調圧ネジ	―― ポンプの吐出圧力を調節するものです。
３．	ベルトカバー	―― 作業者がＶベルトに触れることを防ぎます。
４．	燃料コック	―― エンジンを使用するとき開き、終了時は閉じておきます。
５．	エンジンオイルドレン	―― エンジンオイルを抜く所です。
６．	エンジンオイル注油口	―― エンジンオイルを入れる所です。
７．	燃料レベルゲージ	―― 燃料の残量がわかります。
８．	燃料タンクキャップ	―― 燃料タンクを密閉するふたです。
９．	スロットルレバー	―― エンジンの回転数を調節するレバーです。
１０．	ストップスイッチ（エンジンスイッチ）	―― エンジンを停止するスイッチです。
１１．	リコイルスタータ	―― エンジンを始動するときに使用します。
１２．	エアクリーナカバー	―― エアフィルタを防護するカバーです。
１３．	チョークレバー	―― 冬期およびエンジンが始動しにくいとき使用します。
１４．	マフラカバー	―― 消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。

警告表示ラベルの位置

1.

⚠ 注 意

- 取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
- 使用する農薬の取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 回転部には絶対に触らないでください。ケガをするおそれがあります。
- 原動機とセットするときはベルトカバーをつけてください。

890016-13950

2.

⚠ 警 告

必ず保護めがね防毒マスク保護衣を使用してください。農薬をあびるおそれがあります。

890084-00200

3.

⚠ 注 意

カバーをはずして運転しないでください。けがをするおそれがあります。

890016-01100

4.

⚠ 警 告

室内や換気の悪い場所での運転はやめてください。排気ガスが充満して人体に害をあたえます。

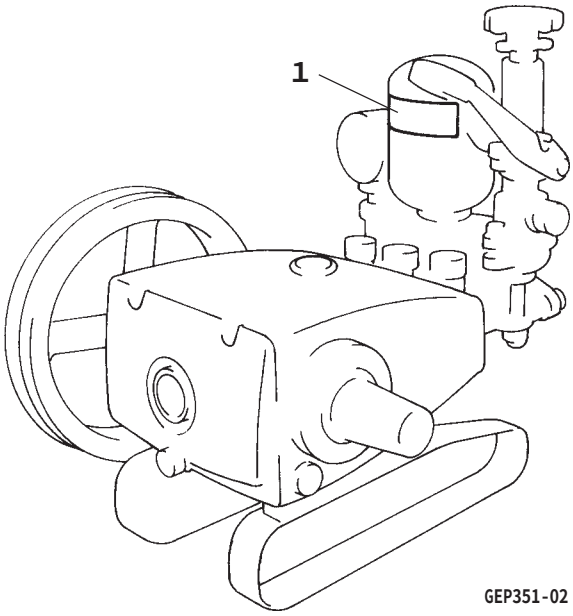
890084-00500

5.

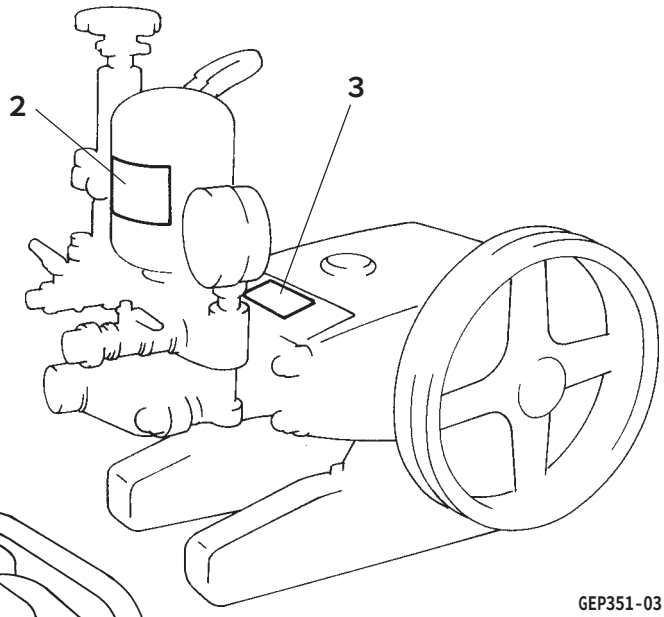
⚠ 注 意

点検整備のときはエンジンを停止してください。けがをするおそれがあります。

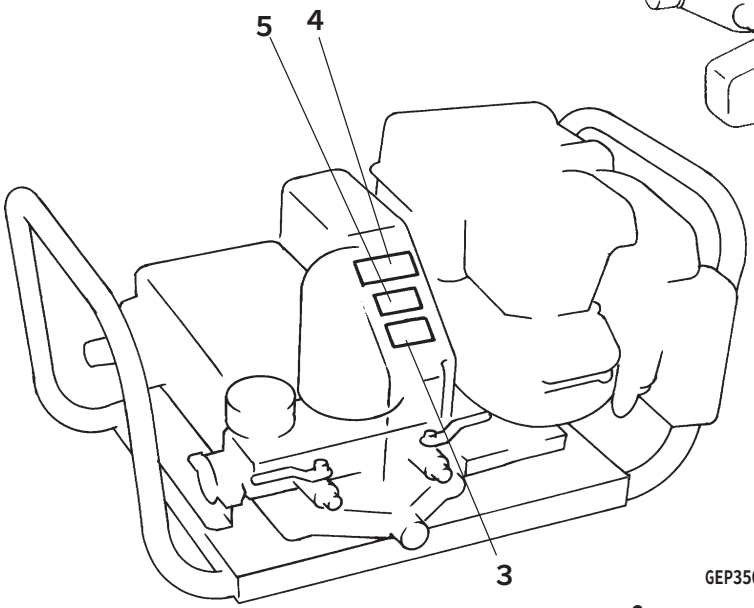
890016-02300



GEP351-02



GEP351-03



GEP350-03

正しい作業のために

⚠ 注　意

作業計画を立て、この取扱説明書を参照し、適切な部品を選んでください。作業に合わない部品を使うと、動力噴霧機が故障したりご利用になる方がケガをすることがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

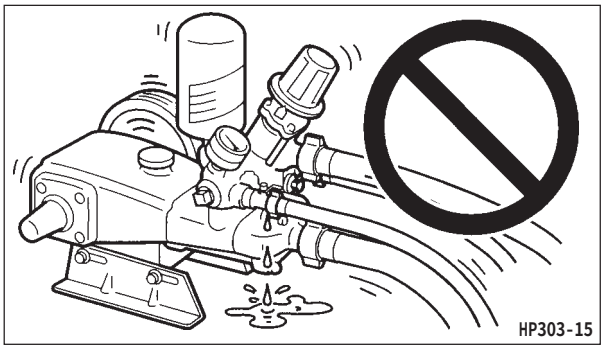
重　要

エンジンの種類、Ｖベルトの種類・長さ、吐出または散布ホース、ノズルは必要な動力、圧力により異なります。
この動力噴霧機の仕様は一般農薬用です。特殊農薬や多種農薬混合を使用する場合は特殊ゴム（バイトン）仕様のパッキンを使ってください。ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



からだの状態

- **病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行わないでください。**



作業前の点検

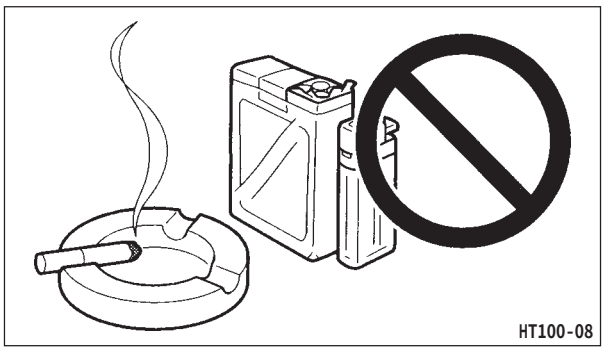
- **各部品がきちんと取付けられているか確認してください。ホースがゆるんでいるとエア、液が漏れることがあります。**



- **子供が近くにいないことを確認してください。**



● 噴霧機を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

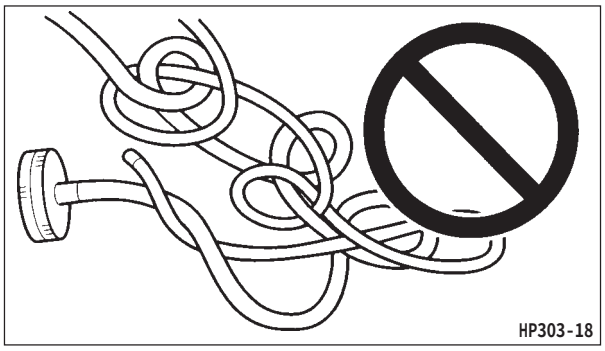
作業中の注意

重　要

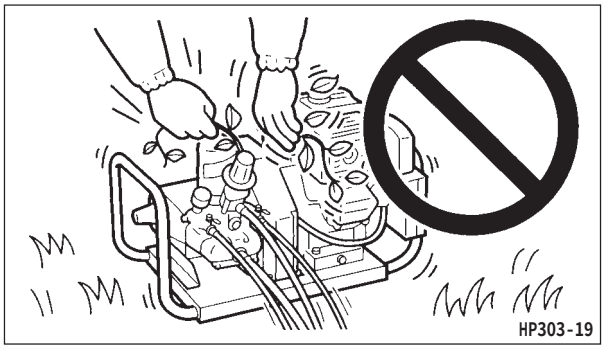
大型貯水槽や河川から吸水し、長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。ポンプの故障の原因となりますので、２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。

重　要

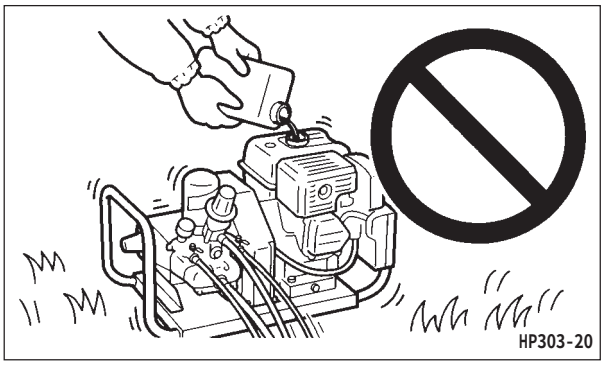
５分間以上、吸水せずにカラ運転を行わないでください。ポンプの寿命を縮め、故障の原因となります。



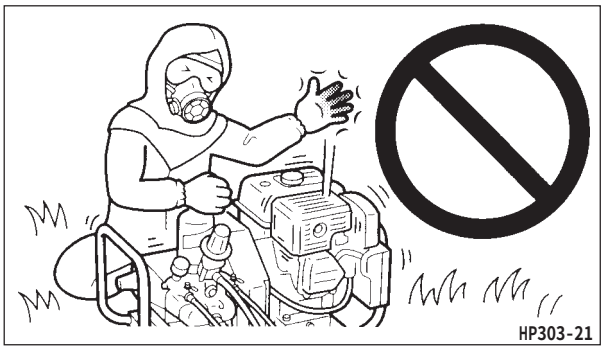
● ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。



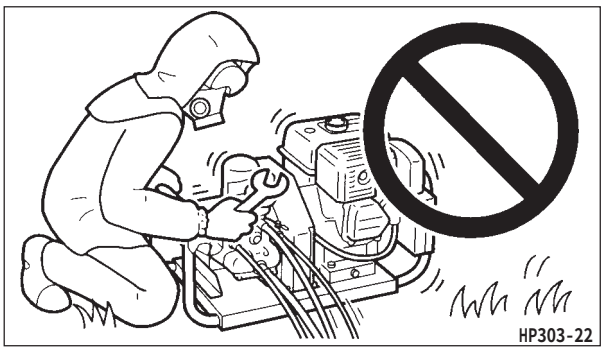
● 動噴機やエンジンに絡みついた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。



● 燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行ってください。
燃料をこぼした場合は、すぐに拭き取ってください。

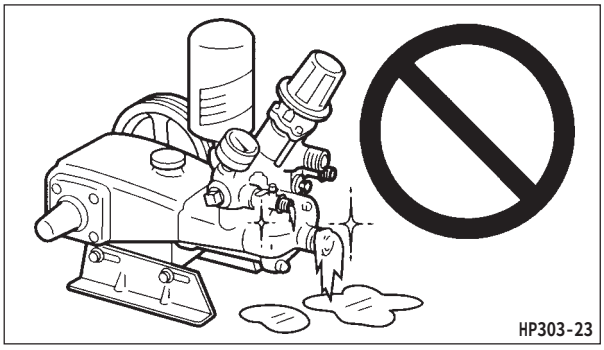


● 停止直後のエンジン、マフラは大変高温です。手を触れないようにしてください。
● 運転中は回転している部品（Ｖベルトなど）や高温部（エンジン、マフラなど）に触れないようにしてください。



保守・保管の注意

● 修理、清掃などの作業を行うときは、必ず運転を停止してください。



● 保管する前に必ず水を抜いてください。冬期には凍結することがあります。

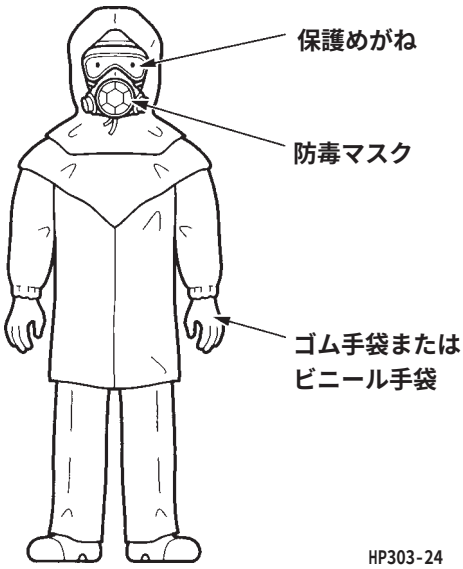
農薬散布について

⚠ 警　告

農薬に関する法令および注意事項は、農薬の種類、使用する場所などにより異なります。そのため､この取扱説明書に農薬に関するすべての法令、注意事項を記載することはできません。お客さまが使用する農薬の使用方法、ラベル表示、関連する法令、注意事項をよく理解してから、散布作業を行ってください。

⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身につけないと事故が起きることがあります。正しく作業するために、かならず適切な服装、保護具を身につけてください。



重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。

⚠ 警　告

風が強いときには絶対に散布を行わないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。



服装について

- **滑らない底がついた靴をはいてください。つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行わないでください。**
- **農薬を散布する場合、頭、あし、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身につけ、農薬が皮ふに触れないようにしてください。**
- **農薬が浸透しないような防水性、汗をかかないような通気性のよい衣服を身につけてください。**

農薬散布の保護具について

- **農薬を吸込まないために、防毒マスクを正しく着用してください。**
- **目を保護するため、保護めがねをつけてください。**
- **ゴム手袋またはビニール手袋を使用してください。**
- **農薬にかぶれやすい人は、保護クリームを顔、首、手首などに塗ってタオル、手ぬぐい、水などを、汗を拭いたり顔を洗うために用意してください。**

農薬散布前の注意

- **農薬のラベルには必要な注意事項が書かれています。いつも使用している農薬でもラベルの内容に変更がある場合があります。使用する前に必ず読み、その指示にしたがってください。**
- **薬剤を溶かすときは、防毒マスク、ゴム手袋、保護めがねなどの保護具を着用してください。**
- **作業を行う場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。**

農薬散布中の注意

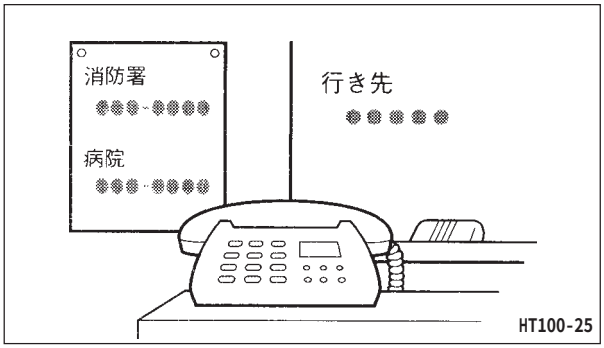
- **散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行うようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。**
- **農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。**


HP303-26

● 農薬の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
● 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。

⚠ 警　告

作業中、からだに異常を感じたときは、すぐに作業を中止し医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

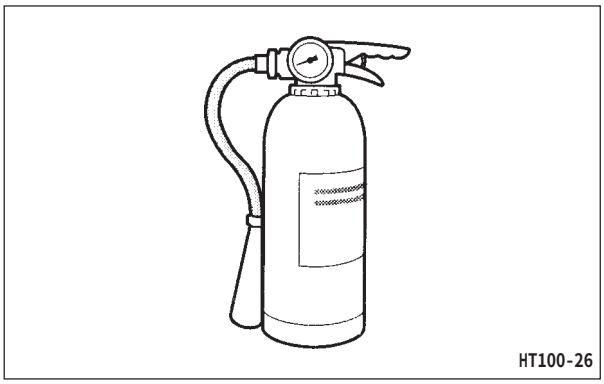


HT100-25

万一の事故に備えて

● 作業の前に
・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
・単独で作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。
・作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。

● 発火に対する備え

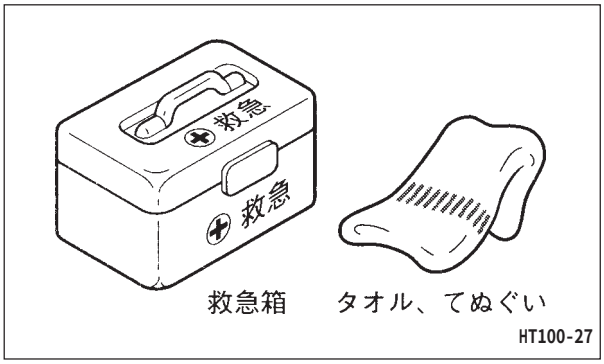

HT100-26

⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、機械から離れ、まず、自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
・草木などに類焼しないよう注意してください。
・シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

●ケガへの備え
・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。



HT100-27

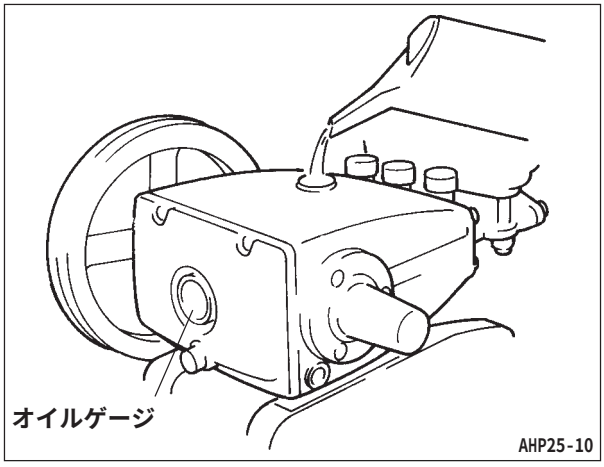
⚠ 警　告

作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

農薬散布後の注意

- **ハウス内で防除作業を行ったときは、農薬が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。**
- **農薬が残ってしまった場合は、川、下水道などに流さないでください。周囲に影響がないような場所に散布してください。散布用にうすめた農薬は分解が早いので、できるだけ残さないようにしてください。**
- **農薬の空き容器はきれいに洗い、適切な方法で処理してください。**
- **農薬、器具の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**
- **農薬散布の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸入した場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むとさらに酵素の働きが低下し疲労の回復が遅くなります。**

運転前の準備



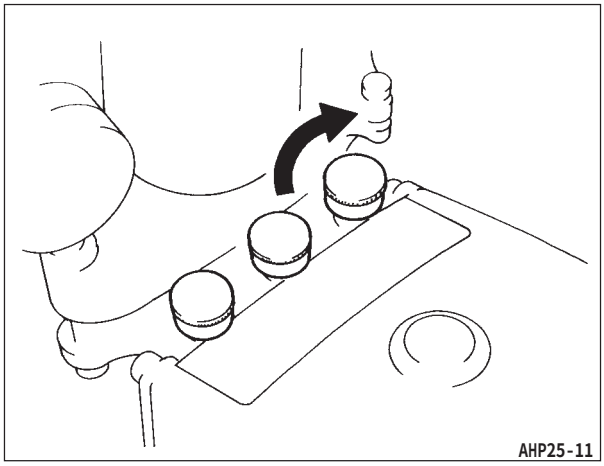
動力噴霧機の準備

- **オイルの補給**

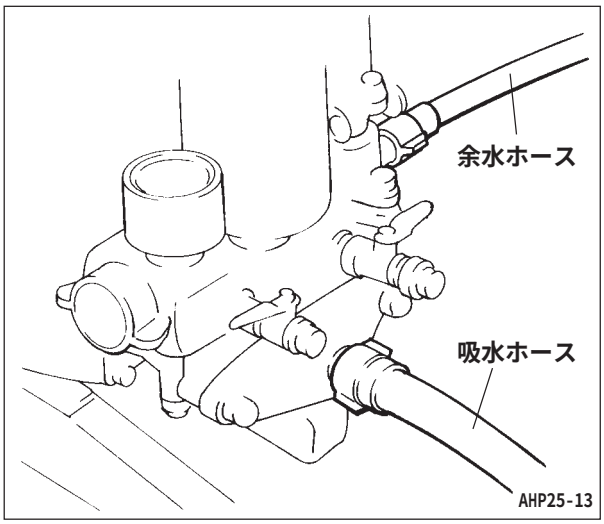
１．クランクケース注油口のふたを取り、オイルゲージの中央にあるマークまでエンジンオイルを入れてください。エンジンオイルはＳＣ、ＳＤまたはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用してください。

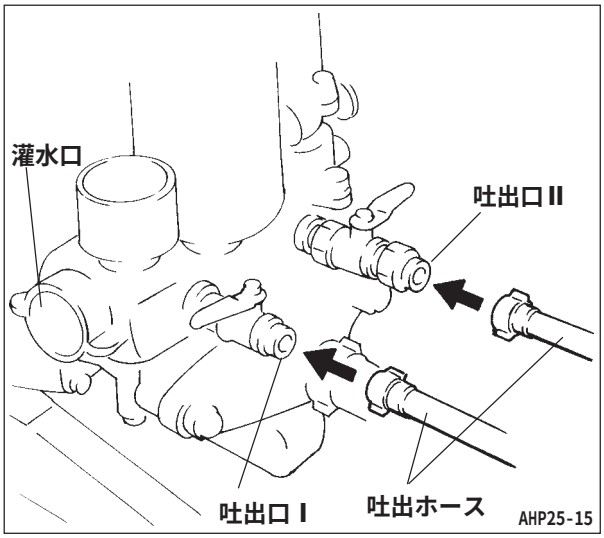
重　要

マークより多く入れるとオイルが吹き出ることがありますので注意してください。



２．グリースカップを時計回りに１～２回程度回し、Ｖパッキンへ給油してください。





● ホースの接続

吸水ホースと余水ホースのネジは、機種によって同じものがあります。ストレーナが付くようになっているのが吸水ホースです。接続する前に確認してください。

吐出口の継手ネジはＩＳＯ規格です。旧タイプのネジを使用する場合は、あらかじめ吐出口の先に付属の旧ネジアダプタを取付けておいてください。

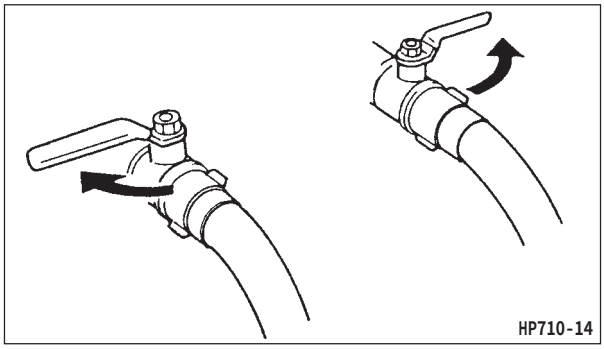
１．吸水ホース、余水ホースをそれぞれ吸水口、余水口へ接続してください。
吸水ホースはエアを吸込まないように、きちんと接続してください。

重　要

ホースを接続するときは、強く締めすぎないようにしてください。パッキンが損傷することがあります。

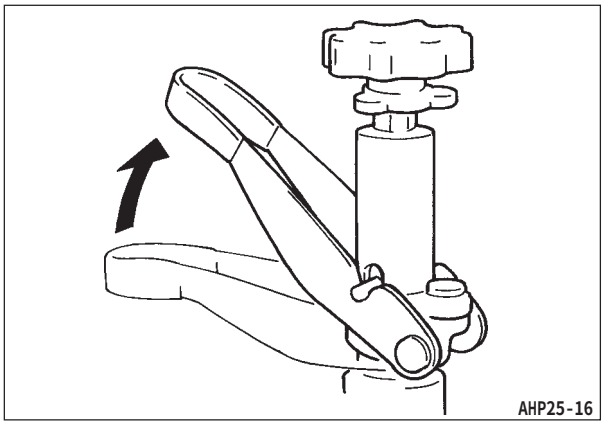
２．お持ちの吐出または散布ホースを吐出口（Ⅰ、Ⅱ）に接続してください。

運　転



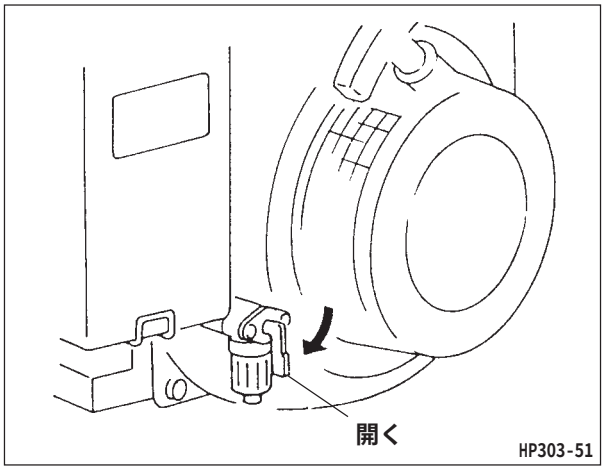
エンジンの始動まえに

１．吐出口のコックをすべて閉めておきます。



２．調圧レバーを立ててください。

３．吸水ホースと余水ホースの先端を薬液の中に入れておきます。

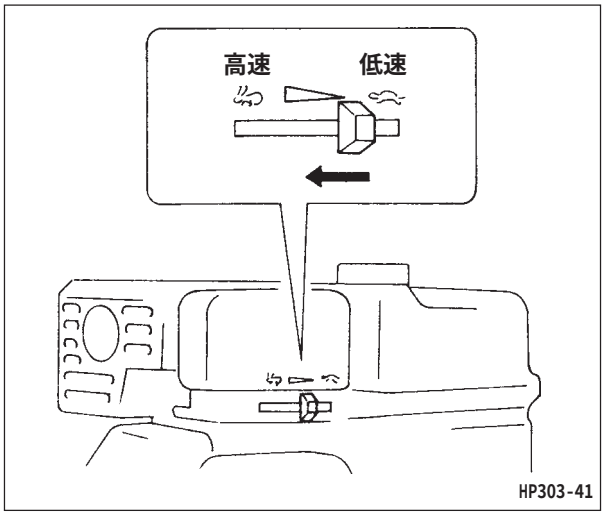


エンジンの始動

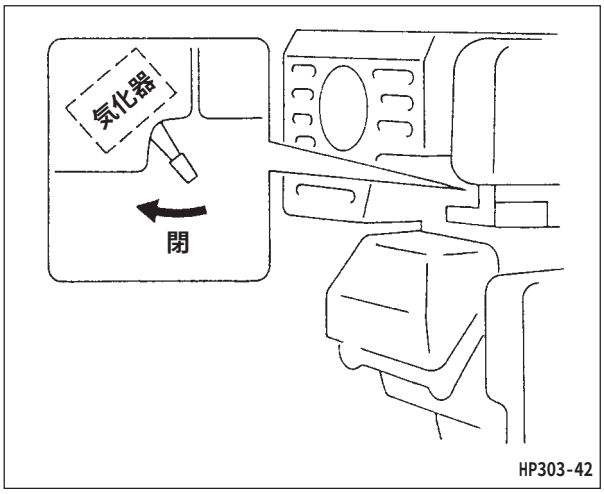
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

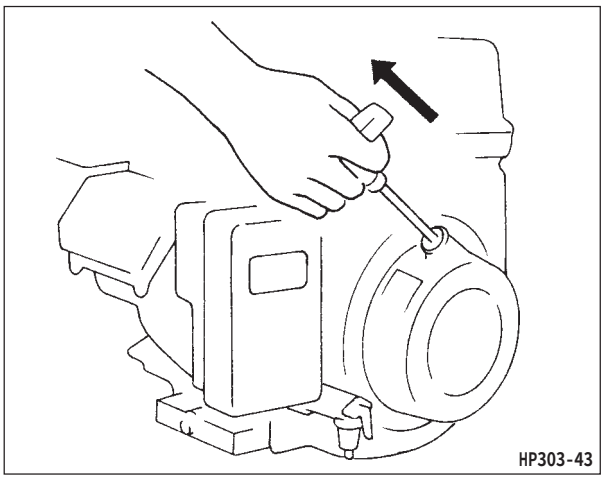
１．燃料のコックを開けてください。



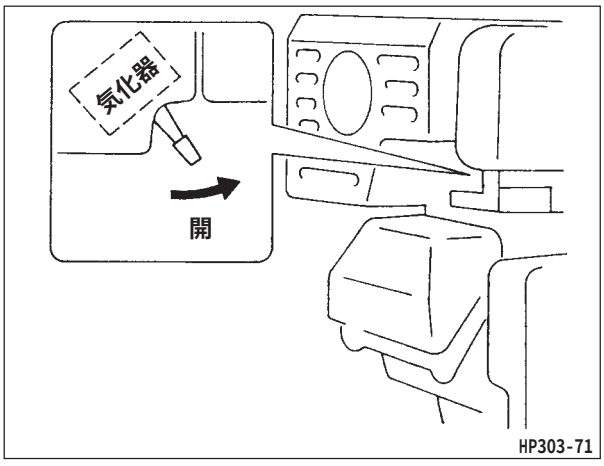
２．スロットルレバーを「高速」の方へ少し動かしてください。



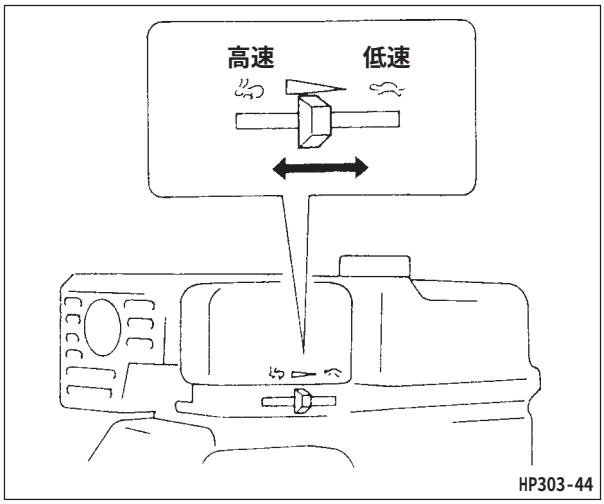
3．チョークレバーを「閉」へ動かしてください。



4．リコイルスタータのノブを握り、いきおいよく引いてください。



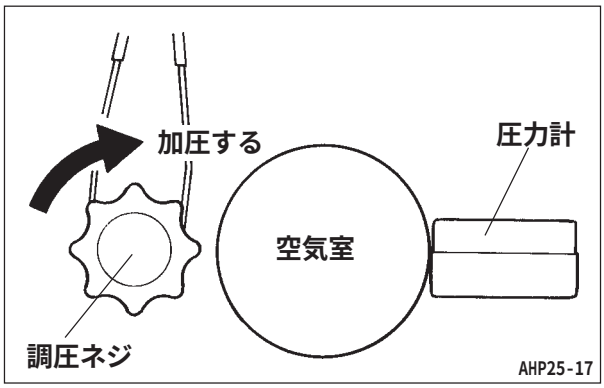
5．エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」へ動かしてください。



エンジンが始動したら

1．ポンプが動き、ポンプ内に薬液が循環します。余水ホースからいきおいよく薬液が出ているのを確認してください。

2．スロットルレバーでエンジンの回転を調整してください。回転数を上げるときにはレバーを「高速」の方へ、下げるときには「低速」の方へ動かしてください。



3．調圧レバーを倒し、圧力計を見ながら必要な圧力まで調圧ネジを時計回りに回してください。調圧ネジを時計回りに回すと圧力が上がり、反時計回りに回すと圧力が下がります。

噴霧作業の開始・停止

⚠ 注　意

- 噴霧機やエンジンに絡みついた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。
- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行ってください。

重　要

- ５分間以上、吸水せずにカラ運転を行わないでください。ポンプの寿命を縮め、故障の原因となります。
- ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。
- 大型貯水槽や河川から吸水し、長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。ポンプの故障の原因となりますので、２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。

噴霧作業の開始

吐出コックを開いて噴霧作業を開始してください。

噴霧作業の停止

調圧レバーを立ててノズルコックと吐出コックを閉めます。

作業が終わったら

1．吸水ホースをきれいな水の中に入れて噴霧を行い、噴霧機の内部、ホース、ノズルの清掃を行います。

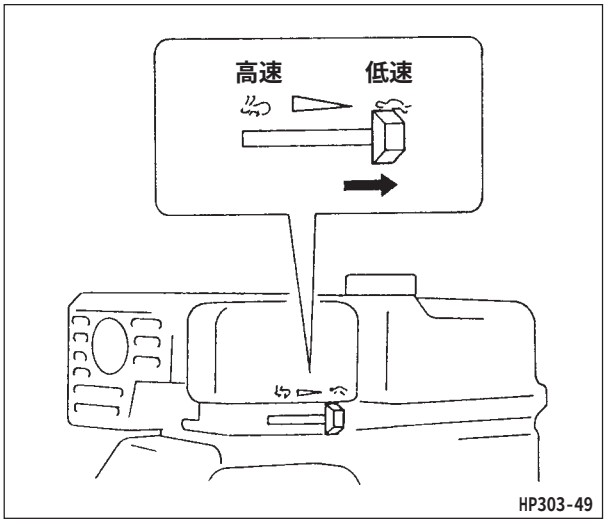
2．ポンプ内の水を抜くため、調圧レバーを立てたまま、吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転を続けてください。

重　要

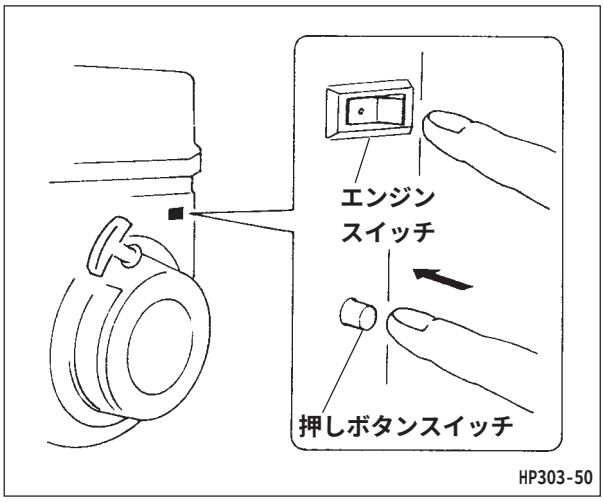
カラ運転の状態となりますので、５分以上は行わないでください。

3．ストレーナを次回の作業のため、充分に清掃してください。

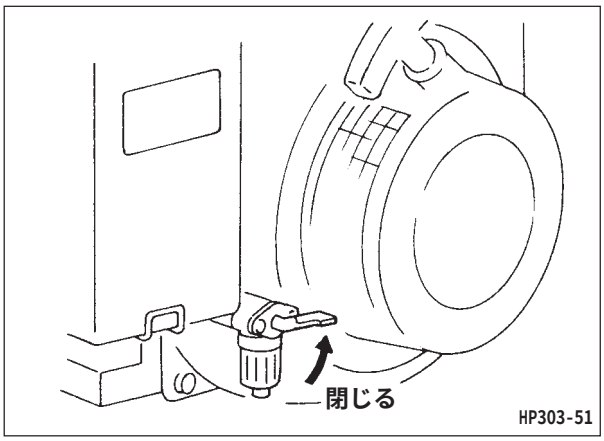
エンジンの停止



１．スロットルを低速にします。



２．エンジンスイッチを、「ＯＦＦ」（「O」印側）に押してください。
＊押しボタンスイッチの場合は、エンジンが停止するまで押し続けてください。



３．燃料コックを閉じます。

輸送・移動時の注意

動力噴霧機を輸送・移動するときには、以下の点を守ってください。

- 必ずエンジンを停止する。
- 使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待つ。
- 燃料をカラにする。
- 動力噴霧機に衝撃をあたえないようにする。

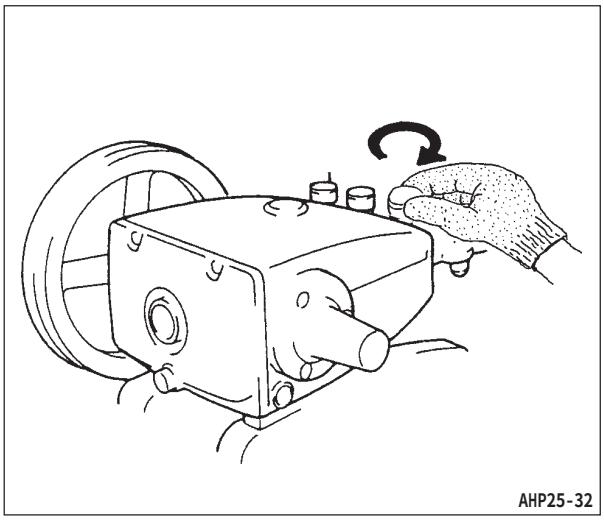
点検・整備

- 点検・整備は、充分な広さがあり、安定した場所で行ってください。
- タバコ、その他の火気は厳禁です。

部 品 名	整備内容	整 備 時 期
グリースカップ	給油	５～１０時間使用ごと
クランクケース	オイル交換	初回は５０時間使用後、以降１００時間ごと
調圧ネジ部	給油	使用時期前
調圧レバーの周り	給油	使用時期前
Ｖパッキン	点検・交換	使用時期前
継手パッキン	点検・交換	毎年
Ｖベルト	点検・交換	使用時期前

重　要

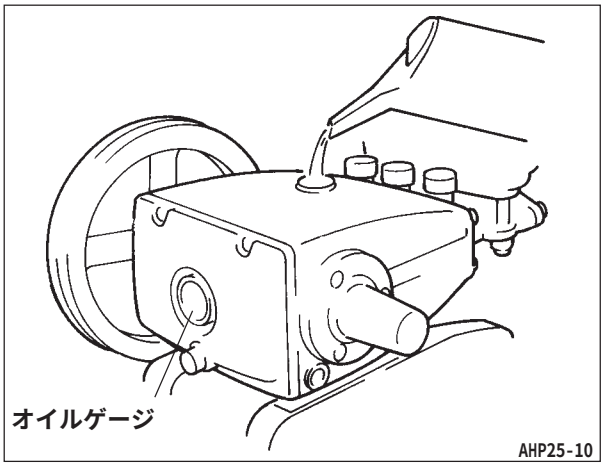
- この表の期間にしたがって整備・点検を行ってください。ただし、実際の使用条件や使用回数により必要と判断した場合は整備・点検の回数を増やしてください。
- 毎月、毎年の整備・点検を行った日付を記録してください。
- １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。



プランジャ部分の給油

（５～１０時間使用する毎に行ってください。）

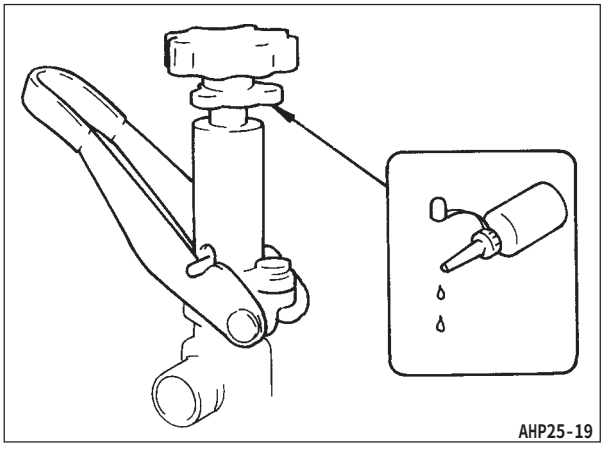
付属のオイラでプランジャ給油口から１０滴ほど給油してください。



クランクケースのオイル交換

（最初は５０時間使用した後に、それ以降は１００時間使用する毎に行ってください。）

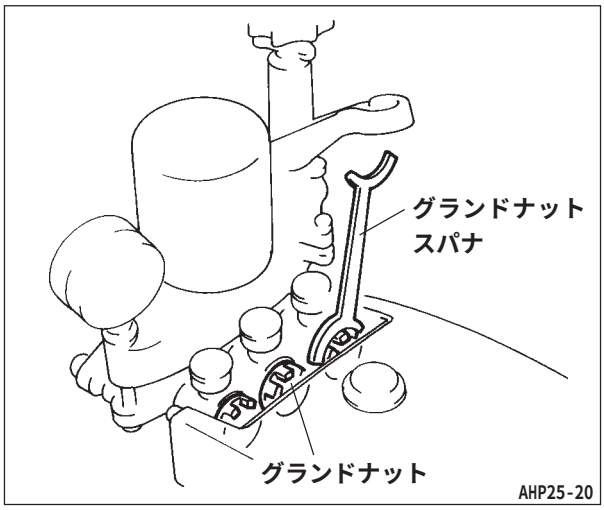
クランクケースのオイルはＳＣ、ＳＤ、またはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用して交換してください。



調圧ネジ部、調圧レバーの周り

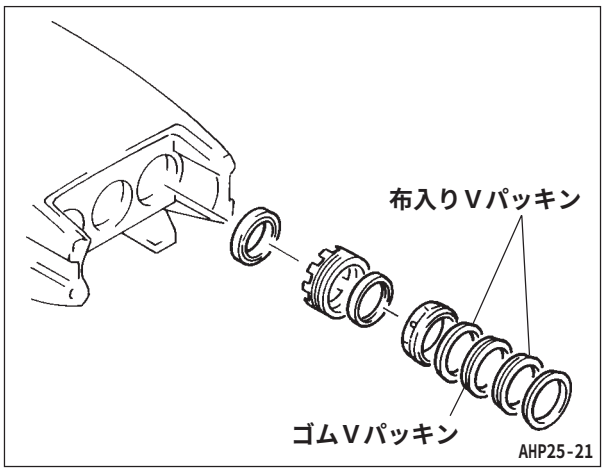
（使用時期前に行ってください。）

オイラで給油してください。



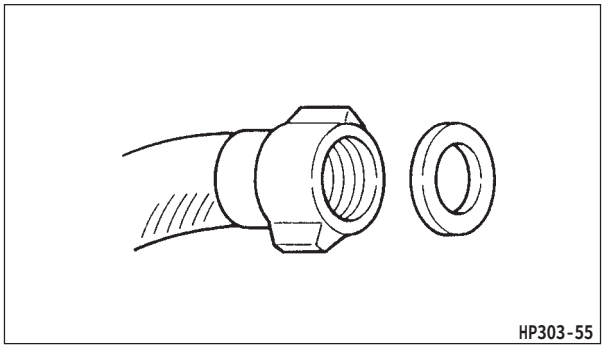
Ｖパッキン

Ｖパッキンの締付けがゆるく水が漏れたときは、グランドナットを付属のグランドナットスパナで締付けてください。それでも水が漏れるときは、新しいＶパッキンと交換してください。



長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときはＶパッキンが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、Ｖパッキンを交換してください。

重　要
Ｖパッキンは高圧形のため、布入りパッキン２枚とゴムＶパッキンの３枚が入っています。交換のときに順序を間違えないようにしてください。



継手パッキン

（毎年、使用する前に点検してください。）

点検し、損傷、摩耗していたら交換してください。

長期保管

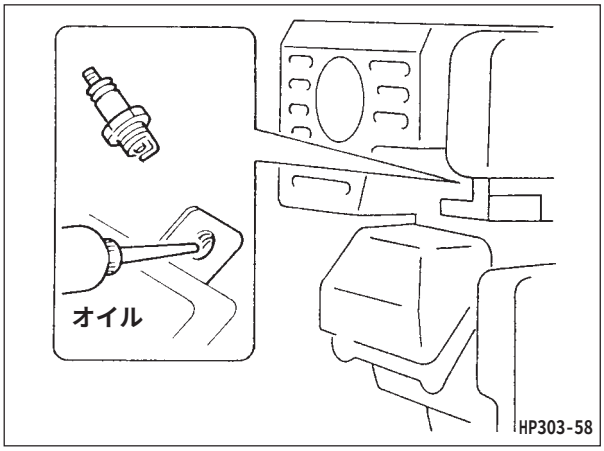
重　要

冬期間、水が凍結する恐れのある地域では必ず水抜きを行ってください。

長期保管する前には必ず以下の手順にしたがってください。

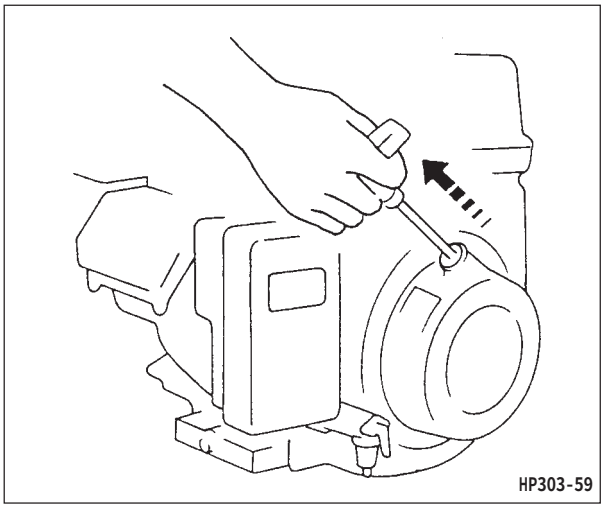
水抜き

きれいな水を数分間噴霧し、薬液を残さないよう洗浄してください。吸水ホースを外して完全に水抜きしてください。



エンジン

- **エンジンを３０日以上使用しない場合は、燃料コックより燃料を抜いてください。また、エンジン内部に残っている燃料は、低速で運転して使いきってください。**
- **スパークプラグを外してシリンダ内にエンジンオイルを小量（約１０ｍＬ）注入してください。**
- **数回クランク軸を回転させてからスパークプラグを取付けてください。その後ピストンを上死点まで動かしてください。**



保管場所

噴霧機は以下のような場所に保管してください。

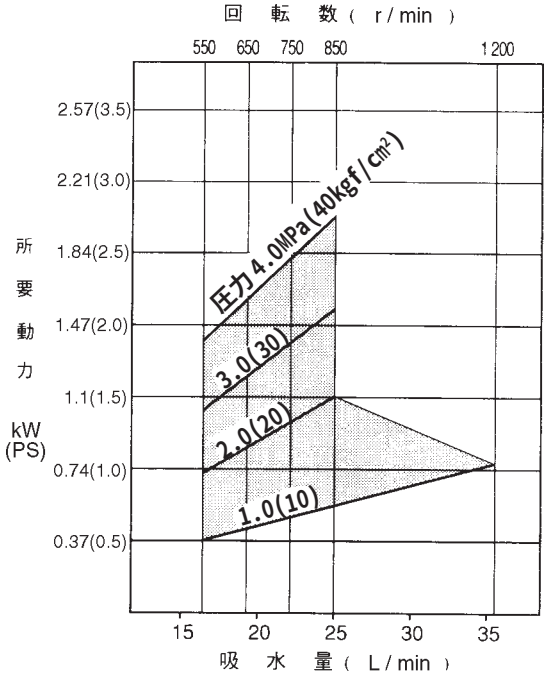
- **直射日光、熱、火気にさらされない。**
- **湿気、ホコリがない。**
- **安定している。**

ご利用の手引き

この動力噴霧機の性能曲線

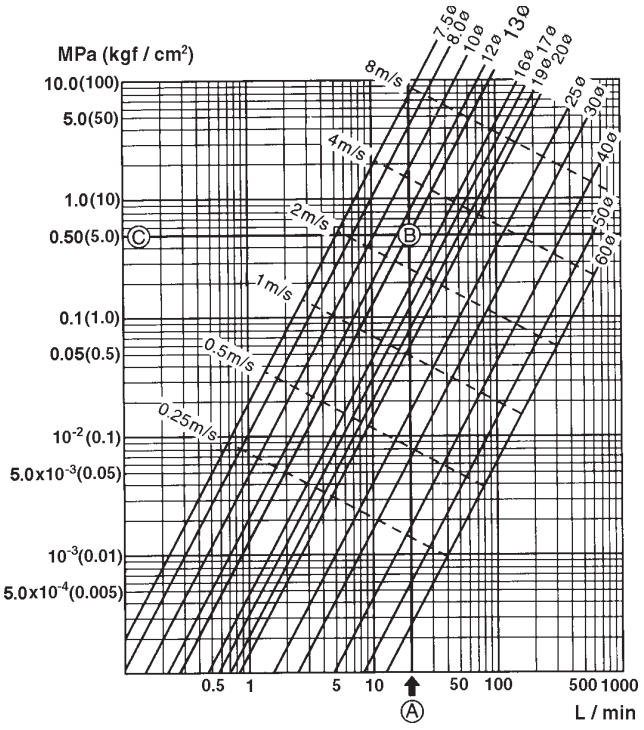
ご使用時には図の性能曲線の下側 ▭ 部分でお使いください。

ＡＨＰ３５Ｂ性能表



GEP351-04

吐出または散布ホース長さによる先端の圧力降下図表の見方



※ このヘッドロス図表はホース１００mが基準です。

例　内径１３㎜のホース１００ｍを使用し毎分２０Ｌの水を流した場合の圧力降下を調べる場合は

① ２０Ｌの縦線を上方へ上がってゆく。A

② 斜線の１３φの線を出し降下圧力を読みとる。B

③ この交点より横に線を出し降下圧力を読みとる。したがってこの場合の降下圧力は約０．５MPa（約５．０kgf/cm²）となる。C

〈計算式〉

$$h = f \frac{V^2}{2g} \cdot \frac{100}{D}$$

ｆ＝摩擦損失係数：０．０２

Ｖ＝流速（m/s）

ｇ＝重力加速度９．８（m/s²）

Ｄ＝パイプ内径（m）

ｈ＝１００m当たりの圧力損失水頭（m）

一般に圧力の降下は‥‥

① 流速の二乗に比例する。
流速はホース断面積に反比例する。

② 長さに比例する。

以上の外、ホース内面が粗い程大きく、コック、ホース継手でも圧力降下がある。

ホース１００ｍ当たりの圧力降下・MPa(kgf/cm²)

		ホース内径(㎜)　呼び					
		8.5 (2分5厘・5/16")	10 (3分・3/8")	13 (4分・1/2")	16 (5分・5/8")	19 (6分・3/4")	25 (インチ・1")
流量 (L/min)	5	0.25(2.5)	0.12(1.2)				
	10	1.10(11.0)	0.45(4.5)	0.14(1.4)	0.05(0.5)	0.02(0.2)	
	15	2.20(22.0)	0.90(9.0)	0.25(2.5)	0.09(0.9)	0.04(0.4)	
	20		1.80(18.0)	0.50(5.0)	0.19(1.9)	0.08(0.8)	0.02(0.2)
	30			1.30(13.0)	0.40(4.0)	0.18(1.8)	0.04(0.4)
	40			2.20(22.0)	0.72(7.2)	0.32(3.2)	0.07(0.7)
	50			3.40(34.0)	1.20(12.0)	0.48(4.8)	0.13(1.3)
	60				1.70(17.0)	0.70(7.0)	0.17(1.7)
	80				2.80(28.0)	1.30(13.0)	0.30(3.0)
	100						0.45(4.5)
	150						0.90(9.0)

吐出し揚程による圧力降下

上記ホースによる圧力降下のほかにポンプの置かれている場所とノズルで散布している場所の高さの差（揚程：Ｈ）によっても圧力降下が加算されます。

〈計算式〉

$$P = \frac{H}{102} \qquad P' = \frac{H}{10}$$

Ｐ＝高さの差による圧力降下：MPa

Ｈ＝高さの差：m

Ｐ'＝高さによる圧力降下：kgf/cm²

故障対策

● 使用中に不具合が起きたときには次の表にしたがって調査の上対策を施してください。

● ご不明の点については、お買い求めの販売店へご相談ください。

不具合事項	原　因	対　策
吸水しない、または途中から吸水しなくなった。	1）吸水ホースが破損しているか折れている。 2）吸水ホースとニップルとの締付不良またはパッキンの脱落。 3）ストレーナが液面から浮上がっている。 4）ストレーナの周りにゴミが付着している。 5）吸・排水弁に砂、ゴミが付いている。 6）吸・排水弁が摩耗している。 7）吸・排水弁が固着して作動しない。 8）Vパッキンが摩耗して空気を吸っている。 9）シリンダ、弁室の締付ナットがゆるんで合わせ面から空気を吸っている。 10）一旦空気を吸込み、調圧弁が加圧状態のままである。	● 破損していたら交換する。折れていたらのばす。 ● パッキンの入っていることを確かめてから充分締めなおす。 ● 浮上がらないよう固定する。 ● ゴミを除き清水でよく洗う。 ● よく洗い落とす。 ● 摺合わせをするか新品と交換する。 ● 弁と弁座の合わせ面をきれいに洗う。 ● 新品と交換する。 ● ナットを交互に増し締めする。 ● 調圧レバーを上げる。
余水から気泡が出る。	1）吸水ホースの取付ネジがゆるんでいる。 2）吸水ホース用パッキンがすり切れている。 3）吸水ホースに穴があいている。 4）シリンダ、弁室の締付ナットがゆるんでいる。 5）Vパッキンの締付けがゆるい。	● パッキンの入っていることを確かめてから充分締めなおす。 ● 新品と交換する。 ● テープなどを巻いて穴をふさぐか、新品と交換する。 ● ナットを交互に増し締めする。 ● グランドナットを増し締めする。
圧力が上がらない。	1）圧力計の入口孔をゴミで塞いでいる。 2）調圧弁、調圧弁座の合わせ面にゴミがついている。 3）調圧弁、調圧弁座が甚しく摩耗している。 4）ノズルからの噴霧量が多く余水がない。 5）圧力計が破損している。	● よく掃除する。 ● よく洗い出す。（弁座は裏・表の両面とも使用できます。） ● 新品と交換する。 ● 全吐出量の１０％以上を余水へ戻すようノズルを替える。 ● 新品と交換する。

不具合事項	原　因	対　策
圧力計のフレが大きい。	1）ストレーナの周りにゴミが付着している。 2）吸水ホースが折れている。 3）吸･排水弁のいずれかに不具合がある。 4）調圧弁、調圧弁座にゴミが付いている。 5）調圧弁、調圧弁座に傷がある。 6）Ｖベルトがスリップしている。 7）エンジンの回転にムラがある。 8）空気を吸込んでいる。 9）エアチャンバ内の空気が抜けきってエアクッションが無くなっている。	● ゴミを除き清水でよく洗う。 ● 折れを直す。 ● 分解して点検対策をする。 ● よく洗い落とす。 ● 摺合わせをするか新品と交換する。 ● ベルトを張りなおす。 ● エンジンを調整する。 ● ホース金具などを締めなおす。ホースパッキンを確認する。 ● 吸水ストレーナをタンクから取出し、余水ホースから水が出なくなるまで空気を吸わせる。
圧力を調整したのち噴霧を始めると圧力の降下がはげしいとき。	1）下記のいずれかが原因で余水量が吸水量の１０％以下である。（吐出過多） (a)ポンプ回転数が不足している。 (b)噴口が摩耗して噴霧量が多すぎる。 (c)噴頭数が多すぎる。 2）調圧弁抑えの動きが悪い。 3）調圧弁、調圧弁座が甚しく摩耗している。	● 回転を上げる。 ● 新品と交換する。 ● 数を減らす。 ● 分解して掃除をする。 ● 新品と交換する。
クランク室内で異常な音がする。	1）連接棒の締付ボルトがゆるんでいる。 2）プーリと「キー」とにガタがある。 3）クランク室内の部品が脱落破損している。 4）ベアリングが破損している。 5）コンロッド小端部のプランジャピンが摩耗している。	● 増し締めする。 ● 交換する。 ● 点検補充または交換する。 ● 交換する。 ● 新品と交換する。
クランク室内に薬液が入る。	1）プランジャ用オイルシールの不良。 2）プランジャの不良。	● 新品と交換する。 ● 新品と交換する。
プランジャ部分より水漏れする。	1）Ｖパッキンの締付がゆるい。 2）Ｖパッキンが摩耗している。 3）プランジャが摩耗している。または条痕の傷がある。 4）グリースが無くなっている。	● グランドナットを締めこんでＶパッキンを締付ける。 ● 新品と交換する。 ● 新品と交換する。 ● グリースカップにグリースを補給しカップ蓋を１～２回程度回して給油してください。

仕　様

項　目		単 位	ＡＨＰ３５Ｂ			
長さ×幅×高さ		mm	390 × 292 × 320			
質　量		kg	11.5			
プランジャ	数	―	3			
	ｽﾄﾛｰｸ×直径	mm	16 × φ 28			
		―	噴　霧			灌 水
回転速度		r/min	550	750	850	1200
吸 水 量		L/min	16.3	22.2	25.1	35.5
所要動力	4.0MPa (40kgf/cm²)	kW (PS)	1.32 (1.8)	1.76 (2.4)	1.98 (2.7)	圧力 1.0MPa (10kgf/cm²)以下
	3.0MPa (30kgf/cm²)	kW (PS)	1.03 (1.4)	1.40 (1.9)	1.62 (2.2)	
調 圧 弁		―	セラミック円錐弁式			
潤滑油容量		L	0.9			
標準プーリ径		mm	180（7 インチ）A 2			
吐出	口 径	φ mm	8.5			
	継手ねじ	ねじの呼び	PF1/4 × 1 (潅水口：ねじの呼び　PF1)			
吸水	ホース	φ mm × m	21 × 3			
	継手ねじ	ねじの呼び	PF1			
余水	ホース	φ mm × m	19 × 3			
	継手ねじ	ねじの呼び	PF1/2			

この仕様は予告なしに変更することがあります。

項　目		単 位	ＧＥＰ３５１
長さ×幅×高さ		mm	640 × 470 × 430
質　量（乾燥）		kg	37
ポンプ	型　式	－	ＡＨＰ３５Ｂ
	回転速度	r/min	900
	常用圧力	MPa(kgf/cm²)	4.0(40)
	吸水量	L/min	26.6
エンジン	型　式	－	三菱　ＧＭ132LN
	形　式	－	空冷４サイクル傾斜形横軸　ＯＨＶガソリンエンジン
	排気量	mL	126
	最大出力	kW(PS)	2.94(4.0)；4000 r/min

この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

株式
会社 共立

〒198-8711 東京都青梅市末広町1-7-2

グリーン事業部　０４２８－３２－６１３３

X750-000 25 0
X750602-050 0